

## 「第 11 回 炉物理部会」会員総会報告

第 11 回「炉物理部会」会員総会が、広島大学総合科学部で開催された「原子力学会 1999 年<春の年会>」の第 2 日目(99/3/23)に行われた。当日の主な議事、報告を以下にまとめる。

### 1 平成 11 年度運営委員について

成田委員長より運営委員会(案)が提案され原案通り以下のように可決された。

#### 平成 11 年度 炉物理部会運営委員

部会長	(1年) アイテル 青木 克忠
副部会長	(1年) 武蔵工大 相沢 乙彦
庶務幹事	(1年) 東芝 三橋 偉司
財務小委員会	(1年) 日立 三田 敏男(留任)
〃	(2年) 名大 山根 義宏
編集小委員会	(1年) 近畿大 橋本 憲吾(留任)
〃	(2年) 原研 中島 健
セミナー小委員会	(1年) 東海大 阪元 重康
〃	(1年) 東海大 長瀬 慎一郎
〃	(1年) 東海大 朝岡 卓見
学術研究交流小委員会	(1年) 原研 大杉 俊隆(留任)
〃	(2年) 東北大 岩崎 智彦(ホームページ担当兼務)
学生・若手小委員会	(1年) 原燃工 伊藤 卓也(留任)
〃	(2年) 原研 大井川 宏之

### 2 夏期セミナーについて

阪元委員より資料(「第 31 回炉物理夏期セミナー」の案内 参照)に基づき今年度の計画について説明・提案された。東北大・阪大が大学院入試と重なることが指摘されたが、やむなしとして提案どおり可決された。(後に阪大は重ならないことが判った)

### 3 部会会計報告

三田委員より資料に基づき説明承認された。

川島委員より夏期セミナーの最終会計報告が OHP を用いてなされた。

#### 4 学会委員よりの報告事項

##### Ⅰ 企画委員会報告(東芝・山本委員)

###### 1) 学会倫理規定に関する議論

- ・ 原子力倫理教育の提唱・チャレンジあり。
- ・ 関連して、本年会に、米国での倫理教育に関する特別講演が企画されている。

###### 2) 「原子力標準」調査専門委員会からの提言

- ・ 学会として、「規格化活動」を推進すべき 「規格・基準委員会」の新設

###### 3) 「日本技術教育認定制度」

- ・ グローバリゼーションへの対応
- ・ 各国4年制大学における技術教育プログラムの同等性を相互承認する協定への加盟

###### 4) 次回以降の計画他

- ・ 1999 秋の大会 : 9/10-12 に新潟工科大にて開催。論文募集は5/6-5/31、従来より1か月早いので注意のこと。
- ・ 2000 春の年会: 愛媛大で開催予定
- ・ 学会創立40周年記念式典 : 5/10 於東大山上会館

##### Ⅱ 編集委員会からの報告(東北大・岩崎委員)

###### 1) 現在、編集委員会の改革を伴う学会誌の全面的な見直しを実施中である。

###### 2) 国際学会の proceeding を学会の特別号として発行することになった。(今年度の遮蔽関係の国際学会が第1号。)

#### 5 京大炉大学院実験について(京大炉・代谷氏)

###### 1) 日本原子力学会1997年秋の大会時に開催された炉物理部会会員総会でお認めいただいた「京都大学臨界集合体実験装置(KUCA)の維持費復活に関する要望書」を平成9年度の部会長であった平川直弘教授(東北大学)に文部省までご同行いただき、要望を伝えるなどした結果、平成11年度より設置当初の約半額にあたる維持費が認められた。この維持費については、以前とは異なり、特に期限が定められていない。炉物理部会会員の方に心からお礼申し上げます。

###### 2) 昨年度から3週間とした KUCA 大学院実験は7月12日の週から3週間連続して行われることになった。これに関連して、炉物理夏期セミナーの日程をご調整いただくなど、部会員には若干のご迷惑をおかけすることになるが、ご理解をいただきたい。

#### 6 秋の企画セッションについて

成田委員長より、学会企画委員の山本氏の意見もありできるだけオープンにテーマを

決めたいが、秋については運営委員会で議論に基づき提案したいとの説明の後、大杉委員より以下の提案がなされた。

#### 軽水炉の高度化と炉物理の課題

内容：高燃焼化、プルトニウム利用、核・熱を含んだ炉物理の課題として設計コード・解析手法・炉物理実験等を含めても良い。

#### 加速器工藤炉と炉物理の課題

HTTR 臨界試験について。臨界予測精度などについて

運営委員会では ～ を検討し、 を運営委員会提案とする。

検討の結果、テーマは 、特に、MOX 利用に焦点を絞ることとし、パネラーは3～4人とする事になった。4月中旬までにパネラー決定し、下旬に予稿の原稿を依頼する。

また、竹田氏(阪大)より、将来は、以前にでていた炉物理・熱流動合同で安定性の問題も取り上げて欲しいとの要望があった。

## 7 その他

### I 学会の home page 関係の報告

1) e-mail 名簿の見直しと会員への e-mail 発送を容易にするシステムの導入を実施中。 2) 掲示板システムは、作成運営済みだが、一部見にくい箇所があるので、現在改良中。 I 佐治氏(東電ソフト)より、ANS 炉物理部会プログラム委員を本年6月から3年間担当することになったので、同委員会への要望、スペシャルセッションの提案等あれば連絡願いたい、との発言があった。